



北九州市立 中尾小学校

学校だより
学力特集号

平成30年10月30日
校長 上村 ゆかり



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

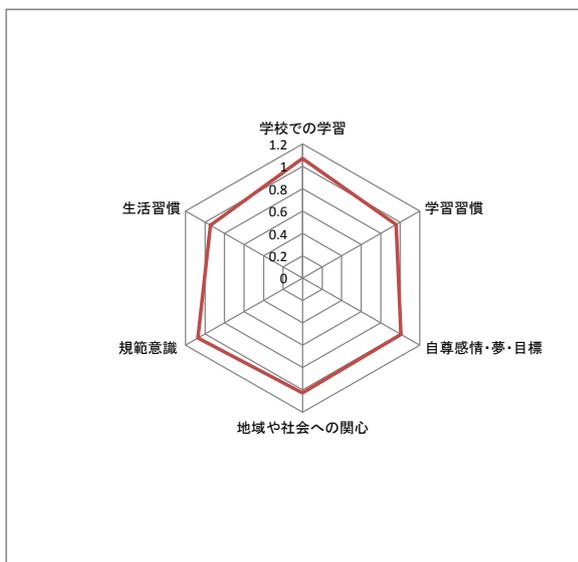
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全ての領域において全国の平均正答率を上回っていた。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について高い正答率が見られた。 文を正しく読み取り、正確に漢字を書く問題、文中における主述との関係などに注意して書く問題の正答率が高い。 	上回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全ての領域において全国の平均正答率を上回っていた。特に「読むこと」の正答率が高い。 「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」の正答率が、全国の平均正答率と比べ非常に高かった。 選択式に比べ、記述式の問題においてやや低い傾向が見られた。 	上回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的によくできていた。「量と測定」に比べ、「数と計算」の領域について低い傾向が見られた。 角の大きさを求める問題、単体量や百分率を求める問題の正答率が高かった。 	上回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> どの領域においても、全国の平均正答率を大きく上回っている。無解答率も低かった。 角の大きさを求める問題、問題を正しく読み取り、その規則性を解釈し、答える問題等についての正答率が高い。 2つのグラフ(棒グラフ、帯グラフ)から読み取れることを適切に判断する問題はやや正答率が低かった。 	上回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> 全ての区分において、全国の平均正答率を上回っていた。 選択式、記述式ともよくできていた。 人体や流れる水のはたらき等、科学的な言葉や概念を理解しており、正答率も高かった。 	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

全体的に全国比と同じような結果になっています。学校での学習及び、規範意識において高い結果が見られました。特に、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と考えている児童が多くいました。学校全体で取り組んでいる「話し合い」や「交流活動」(主体的・対話的で深い学び)の成果が出ているようです。今後も学校全体で推進していきたいと考えています。

生活習慣、学習習慣の項目(家庭学習の時間や朝食を食べる習慣)では、全国平均に比べ、低い傾向が見られました。

学校教育目標

「すこやかに おおらかに たくましく伸びる児童の育成」

